

刊夕日七十月四

# 常磐毎日新聞

定額一圓五角 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓  
 廣告料五圓以上 加一行金五圓  
 日曜祭日の翌日休刊  
 發行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日新聞社

## 平町を觀る (1)

山口彌一郎

一、地名のこと  
 徳尼が故里平泉の二字から平・白水の地名としたと言ふ俗説も後者は本當かも知れないが、平は飯野平より來たとみる方がいゝであらう。平は盆地の意味に用ひられることがある。長野縣の松本平、善光寺平等はそれで昔の飯野郷は今の平町、内郷村、好間村も含んでゐて鎌田山に狭められた上流の盆地の地形から起つた地名と見たい。そこに城山の臺地が突き出て、今の藥王寺臺を大館と言つた東北で館と言ふのはかういふ平地に臨んだ臺地の末端のこと、邸宅の意味ではない。かう言ふ場所に長百姓と稱された立派な家族が住んでゐた。

村落のことをしまと呼んでゐる。いつも洪水に悩まされ、徳尼が尼子橋を架けるといふことになつたであらう。

専稱寺のある山崎は、單に山の先と言ふ意味であらうが、淀川が京都盆地を流れる口の北側にある山崎は、明智と豊臣の合戦地、南の清水八幡宮のある山と共に帝都の門戸を扼する要害の地であつたが、この山崎も南の鎌田山と共に盆地の門戸を握り確に重要な役割をもつてゐる。

夏井川と好間川と合流する袋地を川中子と言ふ。川の中子島と言ふ意味で上杉武田の戦つた川中島は、犀川と千曲川の袋地で、同じ意味の地名である。

好間川の上流、大瀧山の西に箕輪村がある。箕輪、三輪等書く地方もあるが、

### ノート

買物は値段にこだはると鑑別力が鈍くなる、先に品物を鑑別してから値段を相談すると間違ひが少いものだ。

箕の形から來た地名で古來鬮争の結果敗れて本居を追はれて立退いた者が、隠れて縁故の深い小敷のものだけで平和に住まうとするや

うな隠田居住地として自ら護るに適當する必要から、こ

### 二明日の献立

- 【朝】みそ汁—あられ豆腐
- 【晝】鶏卵焼—鶏卵焼 みつば 推茸 おろし大根
- 【晩】鮭—鮮魚 一と鹽 みつば 笹打みよが

のやうな地形の場所が選ばれて、平野に出た平町に明るく暮せぬ人々の村落があつたであらう。

### 常磐六藝

#### お祭り

- 飯村 閑舟
- けふはお祭り
- 宮太鼓
- タンノードコドン
- ドンドコドン
- 叩けよ ひびけ
- どこまでも
- ビイビイガラガラ
- にぎやかだ
- ワッショイ ワッショイ
- 人波だ
- けふはお祭り
- ヨイサツサ
- りらしい姿の
- みどり色
- 頭はやねじり
- はちまきで
- 御輿かついで
- 若者が
- ワッショイ ワッショイ
- もんでゆく

櫻花の季節になりました  
 お花見には是非

# 夜宮の折詰

時節柄価格低廉  
 奉仕的勉強  
 平町一丁目  
 電話一四一番

是非御利用を

平町四丁目河岸通り  
 電話六〇六番

## 三井質店

新學期の裁縫用具は  
 ハシモトヤへ!

女生用カバン  
 澤山入荷しました。

田町 ハシモトヤ糸店  
 電話十四番  
 (少年店員募集)



お花見辨當

御重入辨當

# 御花見の折詰!

特賣品を(一名)朗折詰で

御一人前 五十五錢

魚 七品  
 すし 五品  
 銘酒 一本  
 サカツキ 一本  
 花カンザシ お土産品 一本

立献詰折朗  
 百個以上は特に御相談に應じます

外に 魚 折詰 二十錢ヨリ  
 すし 折詰 二十錢ヨリ

例年の通り魚清自慢の  
 特製 みつ豆 八錢

始めました

お花見のお歸りには是非お立寄を:

# せ魚清食堂

平二(電六三三番)

# 平館

入場券  
 一名二付 五錢安

平町 土橋 マルマン商店  
 電話四八九番

御入學、御進級、御卒業ノ  
 プレセントニハ是非御時計ヲ  
 御用命ハ……驛前通りノ

# 星野時計店

へ願マス

記念トシテ來ル廿六日迄粗景品付  
 正札ノ一割引特賣御修繕ハ大勉強  
 致シマス

月曜是非

婦人の視野

平町の有志婦人に依つて組織される『みのり會』の會員達が此程平町役場の事務状況を見學して、青沼町長から町治に關する話を傾聴した、同會では今後も從來のたゞお集り式な會合の型を破つて、社會の各般に亘る參觀を主とし智徳の涵養に努める計劃であると聞く

此の試みは確かに進歩的な遣り方であり、常に家庭の中に閉じこもつて居て社會とは全く没交渉な位置に置かれて在る婦人の視野を廣める上に相當の効果を擧げ得るものと思ふ。

一體婦人はお饒舌である割合には話題が豊富でない女が三人寄れば姦しいといはれる程であるに抱らず、その姦しい話題の中心は、『何處其處の誰れが……』の噂話以外何のものでもない場合が多い、そして多少なりとも重要性を帯びた問題は男子の世界にのみ語る事を許された話題であり門外不出の自分達が口にするべきではないとも思つて居るのか多くを語らうとしない。

是れは婦人が自分の意見を述べるといふ事が、人に逆らふ事になりはしないかとの引込思案な遠慮からに依る事であらうが、一つには婦人が家庭生活にのみアクセクと壓倒されて、廣い社會の實狀に觸れる

機會が少なく、従つて其の視野が男子よりも狭く乏しい關係からではないかと思ふ。

實際に何處へ獨り出でる事も出来ず、何を観るでもない婦人の立場から考へれば決して無理ではないのであるが、井戸の中の蛙である姿を以つてして、子供を保育する重要な役割を完全に果し得やうかどうか？大抵の母親は中學校か女學

校に入學する頃の子供達よりは餘程遅れて仕舞ふのが普通である。

平町に於ける比較的インテリ階級に屬する婦人達の集團を以つて目される『みのり會』がその眼を家庭の外に向け出したのは種々な意味に於いて婦人の覺醒的實證を示すものであり、町の文化向上の上からも喜ばなければならぬ現象であると信ずる。

鮫川江筋の起工式舉行

先づ地鎮祭に始る

工事管理を組合に移管

既報鮫川江筋改修事業起工式は昨十六日午前十時より上遠野村舊取入口に於いて行はれたが先づ知事代理市長橋耕地課長司會のもとに地鎮祭に始まり、鈴木代議士井上、野崎兩縣議外地方有志百餘名參列、神官の厳かな修祓降神の諸儀あつて耕地課長が鍬入の儀をなし參列者の拜禮に終つて起工式

に移り知事の式辭を市橋課長代讀、長瀬水利組合管理者の祝辭、來賓を代表して鈴木代議士及び古川前縣議が祝意を述べて閉式直ちに祝宴を開き午後一時散會した尙同工事の管理は縣より組合に移管され失業救済の趣旨に依つて地元民を多數使役する豫定であると

飯野の村有林に

苗木一萬本植樹

上荒川と北白土青年出動

石城郡飯野村山林會では今回五十町歩の村有林に櫟苗一萬本を植樹する事となり近く上荒川青年團員三十名

名、北白土青年團員三十名が出動して同山林の柴刈防火豫防後の設置等の勞力奉仕を爲すと

結核豫防に關し

接客業者に注意

廿日豫防デーの當日に

来る廿日の第九回結核豫防デーの際し平署では豫防智識の普及を計る爲め當日は郡醫師會其他の團體と協力して講演會映畫會等を催すが特に今回は管内の接客業者を招集して諸般の注意を與ふる由

れた小楡山久作氏は本日平着午後三時五十三分にて赴任された

雄辯大會

審査員決定

既報縣下聯合青年團雄辯大會は来る二十一日午前十時より平署會議室に於て開催されるが當日の審査員は左の如く決定した

末原學務部長 吉富教育課長 青沼平町長 大森勇 藤田榮助 佐藤康男 小楡山警中校長 矢野平商校長 正木警女校長 曾我第一校長

中 302121011  
一二三四五六七八九  
炭 0000000433

平實業校

廿五日始業式

平商業學校内平實業公民學校の本年度始業式は来る二十五日午後七時より平商講堂に於て舉行されるが入學申込みの締切は二十三日で

教授科目は修身、公民、國語、數學、珠算、商業、簿記、地歴、英語、體操等である

警中新校長

本日赴任さる

今般警城中學校長に榮轉さ

△北五〇 當時崎玉縣川越氏字川越柴野富盛氏二

農事同窓變更

既報

来る廿日團體事務所樓上に開催する筈であつた農事講習同窓會は事務の都合上廿七日午前十時より變更された

高野教諭逝く 平商業學校教諭高野脩二氏は過般來病氣の爲め休職靜養中の處昨日午前三時逝去、本

平町人事

回出生

△北五〇 當時崎玉縣川越氏字川越柴野富盛氏二

△仲間町一 當時東京市淀橋區戸塚町一ノ五四六馬場邦治(三ツ)

△六間門一九高野脩二(二三)

△彌宜町一四吉田マツヨ(三七)

謹告

明十八日縣社子歛倉神社大祭當日ハ例年ノ通り謹而休業仕リ候 但日本銀行並ニ縣町金庫事務ハ平常ノ通り扱取申候

平町銀行組合

MSカメラ景品附大特賣

花の春!!!

カメラのシーズン!!!

散歩に御旅行に

春の行樂にはぜひMSカメラを

MSカメラ第一回懸賞寫眞募集

一、資格弊店より御買上のカメラで撮つた寫眞に限る

二、寫眞：櫻を背景とした人物及風景に限る

三、大きさ：小型ベスト名刺版にて何枚出す可 但し一人一賞の事

賞品 一等銀カッブ以下十等迄

〆切 四月三十日 發表 五月五日

其他詳細は當店へ御問合せ願ます

カメラ特約店

主催 平驛前いづみやカメラ部

家政婦

御申込早速お手傳ひに

料金は極めて低廉です

平町紺屋町二(電呼六五二)

上原家政婦會

# 櫻の歡樂境が

## 愈よ幕開き

### 昨夜から電灯一齊に輝き

常磐線第一を以つて自他とも許す松ヶ岡公園の櫻は今年陽氣が幾分遅れて例年は十日の忠魂祭の頃に既に早咲きが

## 樹下に踊る解語の花

に輝き出したので園内の餘興場では今晩七時から美妓連の出演に依る『四君子』『日滿親善』『平小唄』等の踊りが演ぜられ明日から五日間は晝夜二回右の外に『春』『櫻狩り』等を差し加へて美しい處を見せるとの事愈よ櫻の歡樂境は幕開きとなつた

## 花時に...

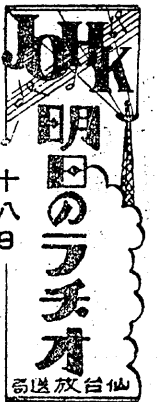
### 私服を動員

#### 公園の内外を警戒

平警察署では花の満開を目先に控えこれに伴ふ犯罪の増加傾向を見込して喧嘩、暴行、スリ、ひいては性的犯罪等防止と共に市内内外大衆に恐怖の念を抱かしめず愉快に興ぜられる様にする爲め最も賑ふであらう向ふ一週間非番の巡査を動員して私服を着用させ巡査せしめると共に夜間は十二時頃迄當番巡査私服をもつて警

### 金を落す

櫻花の春となつて氣のゆるみか最近大金の紛失者がめつきり多くなつた石城郡三



今晚は南東の風雨 明日は北東の風天 氣次第に快復いたします

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話、春の魚、梶山英二  
後八、〇〇 「俚語」 安達  
芳水外  
後八、二五 長唄「吉原雀」  
杵屋東十郎外  
後八、五〇 連続講談「後

### 明日の部

前六、三〇 基礎ドイツ語  
講座(四)橋本忠夫  
前九、一〇 料理献立「サ

## 假裝行列八十六組

### 入山の山神祭で審査

石城郡湯本町入山炭礦では昨十六日の山神祭當日同礦グラウンドに從業員の假裝大會を催したが参加八十六組百餘名に達し午後一時より審査會を開いた結果左記の如く入賞決定

- (一等)高砂佐藤平吉(二)浦島太郎武田須美枝
- バット將軍の凱旋村澤新一郎(三等)桃太郎菅波末吉(四等)安全目出度川元金造

## 舉動不審

### 青年檢舉

#### 前科三犯で詐欺を働く

昨十六日午後九時頃平驛待合室で舉動不審の一青年を平署員が怪しみ取調ると平町五丁目生れ當時住所不定詐欺前科三犯石川文四郎(三)で同人は昨年七月水戸刑務所を出獄以來各地を流浪して本月十二日双葉郡瀧田村字上茂岡益次郎二男菊田茂信(一)を東京の自動車

## 少年消防

### 聯合檢閲出動

平第一小學校少年消防隊にては来る十九日午前九時より警中グラウンドに於て行れる平署管内四町十六ヶ村の消防聯合檢閲に出動する爲め目下係訓指導の下に訓練中

## 社告

### 明日平町縣社子鉞倉神社例祭に付き

從業員慰安の爲め休刊候也  
昭和八年四月十七日

### 常警毎日新聞社

開催準備に就いて本日午後三時より丸友ホールに於いて委員會を招集し打合會を

「モンメニエル」朝食長  
前二、三〇 家庭講座  
「晩春茶の湯」(一)栗山善四郎  
後六、〇〇 五獨唱とピアノ  
アルト小菅みえ 子ピアノ  
獨奏並伴奏福原のり子  
後二、〇〇 家庭大學講座  
「支那事情」參謀本部支那班長陸軍軍醫中佐柴山兼四郎  
後二、三〇 運動競技東京大學野球聯盟リーグ戦試合状況 明治神宮外苑野球場より中継  
後六、〇〇 子供の時間  
少年講談「手棒の清作」奈良島知造  
後六、二五 講演「新入學兒童の智能とその後の延ばし方」高峰博  
後七、三〇 講演「國語統一問題に就て」逓信大臣南弘  
後八、〇〇 放送映畫劇「十九の春」伏見信子外  
後八、五〇 連続講談「後日の宮本」第二席 大島伯鶴

平職業紹介所報告  
回人を求める方  
△自動車助手 二十以下  
高卒 數名(平町某自動車店)  
△鐵工見習 十六才 高卒  
仕着小遣(平町某)  
△農夫 三十才 月七八圓  
外面談(江名町某)  
△女中 五十迄 月五六圓  
外面談(箕輪村某旅館)  
回職を求める方  
△女中 四十一才 無學  
給料面談(平町某)  
△給仕 十五才 高等二修  
給料面談(平町某)  
△雜婦 四十三才 尋一修  
給料面談(平町某)  
△商店員 二十六才 高卒  
給料面談(平町某)  
△商店配達 三十一才 高卒  
給料面談(大野村某)



# 禁書 禁書 禁書

【禁書上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演  
近藤 紫雲 畫  
佐々木 見山

第三百十七號

田口清助の云ふ事を聞いた  
菊地大六暫くかんがへて居  
たが

大「成る程、貴様の云ふ通  
り俺が實力を殿様を始め家  
中の者に示さぬと佐々木の  
ためにこの指南番の位置を  
とられるであらうもつとも  
彼も今とて指南番ではある  
が先づ俺の助手の様な者だ  
……」

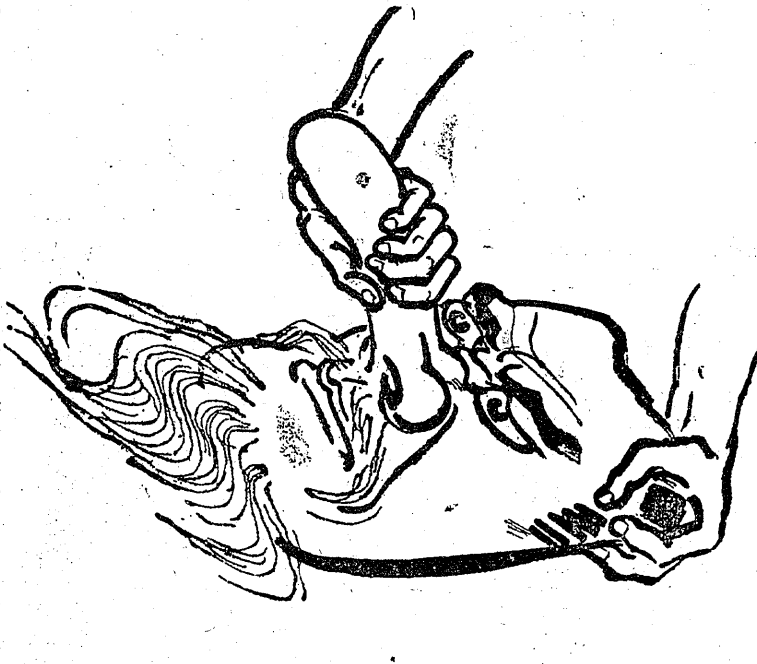
清「左様でございますしか  
し先生あなたは佐々木より  
上でございますか、あなた  
の剣術を化粧剣術などと申  
す程でございますからあな  
たに打勝つ自信もございま  
せう」

大「さうであらうが拙者と  
てもやす／＼彼に敗れを取  
る様な事はあるまい」  
清「それ程思召すならば殿  
様の御前で試合を遊ばせ」  
大「ウン早速此の事を願ひ  
出るであらう」

と書面にて目附まで差出  
した目附より家老の吉田織  
部の許へこの願書を轉送し  
た織部は使ひを出して佐々  
木見山を招き  
織「かういふ書面を菊地か  
ら出したが試合をいたすか  
……」

佐「どういふ文意でござい  
ますか」

と佐々木がそれを見ると  
若侍の武藝奨励の爲めに殿  
様御前に於て佐々木と試合  
を致し度此儀お許し下さら  
ば誠に有難き仕合せと認め



てある  
佐「成る程しかしこれは宜  
しからざる事と存じますこ  
んな事なら怨みを生じ果て  
は間違ひになります、先づ  
私が負たこと、致しませう  
……」  
織「それは叶かんよ試合を  
せずには貴様がまけたこと

いたす事はなるまい」  
佐「左様ならば相手をいた  
しませう、相手をすればと  
てそれはほんの形式で二ツ  
三ツ得物が合へば私は恐れ  
入つた参つたと申します」  
織「それも叶かんやなやす  
く貴様が負ては推擧いたし  
た我々の不門になる充分に  
立合へ必ず遠慮するなそれ  
に菊地は技は出来て居れど  
心が出来ておらぬこれを幸  
に高慢の鼻をへし折つてや  
れ」

佐「うまくへし折ることが  
出来ましか菊地はなか／＼  
出来て居りますさす

れば果して私が勝利を得る  
とは云へません」  
織「兎に角も試合をいたせ  
殿様の御前はよしなにとり  
なし菊地の願意貫徹いたす  
やう周旋するであらう」  
と云つた是れから吉田織  
部は玄蕃頭候に大六より差  
出した書面を示し若侍武藝

奨励のために試合の儀をお  
許し下さるやうにと申し出  
でた  
殿「この様な小兒より大事  
が起るといかん先づは見合  
せてよからう」  
織「仰せ御尤もには存じま  
すが菊地と申し佐々木と申  
し何れも斯道の達人打負ま  
すればとて遺恨を抱くやう  
な事はありませんまい」  
殿「然らば菊地の願書開届  
けるであらう」

と承知したそこで三月十  
五日馬場に於て試合をする  
ことに決した、佐々木は少  
しもこの事を心にかけてゐ  
ない門人は心配して

○「先生當月十五日はいよ  
／＼試合でございませうな」  
佐「さうださうだナどちら  
が勝つか俺が負ければ菊地  
が勝つ菊地が負ければ俺が  
勝つ、勝負がつかずば相打  
だ……」

○「それは存じております  
菊地先生も名人でございま  
すから油断はなりません」  
佐「さうだナしかし勝敗は  
時の運と申すこともあり名  
人必ずしも勝を得るとは云  
へまいこのわがからぬ所に面  
白味がある」

○「何れにしても當日は我  
れ／＼共が試合を見物いた  
して子孫までの茶話に致し  
ます」  
佐「それほど興あるもので  
もなからう」  
と笑つてゐる、此方は菊  
地大六毎日摩利支天を念じ  
この試合に勝利を得さしめ  
給へと一生懸命に祈念する  
若黨の田口清助も鬼子母神

を祈る、これは義理一べん  
精神こめて祈るわけでない  
さて十五日になつた早朝よ  
り臥し床を離れた菊地大六  
先づ酒を献三過してこれ  
から食事をいたし麻上下を  
つけ田口と草履取を伴れて  
馬場へ出て來ました、紫地  
に白を以て有馬家の定紋を  
現した幕を打廻し正面には  
機敷を設け屏食をたて又毛  
氈を敷きつめてある菊地大  
六は係の者に會釋して休息  
所に通つた

御用命は印刷物の  
常磐日印刷株式會社  
電話三六〇番

淋病 梅毒  
専門門  
松村 院  
電話一七〇七

耳鼻咽喉科専門  
玉屋洋品店  
平町田町電話六五六番

謹告！  
御鼻負皆々様の御勧めに依りまして、  
今度花の松ヶ岡公園記念碑前に賣店を  
出させていたゞきました。  
是非御立寄下さいませ御待ち申上  
ます。  
平町田町  
山内醫院  
醫學士 山内亨吉  
電話六九一

耳鼻咽喉科専門  
氣管食道科  
大和田醫院  
平南町(電話一七〇番)